

## 自主調査研究報告 [完了報告]

北海道の歴史的寒地港湾整備技術に関する 調査研究 (他2A-3-②)	大分類	他2A
	中分類	他2A-3

## 1. 目的

小樽港をはじめとする北海道の港湾整備は、明治時代から本格的に進められた。黎明期の港湾整備技術は個々の港湾毎に工事記録として取り纏められ、それが徐々に伝播したが、その技術の普及の経緯に着眼した資料は些少であり、それを追うためには個々の文献から調べる必要がある。

戦後は北海道開発局が整備主体となり道内の港湾整備が進められた。精力的に開発された技術は個々の論文・報文にストックされているものの体系化されておらず、過去の事例を参考に効率的・効果的な技術開発を行おうとしても、個別の文献に遡る必要がある。

本研究では、明治時代から平成時代までを対象に、北海道の港湾整備の歴史を振り返るとともに、北海道で生まれた寒地港湾整備技術の誕生と伝達について整理したものである。

## 2. 実施内容

港湾整備のあり方は戦前、戦後で異なるため、それぞれ別の調査手法を採用した。

戦前は築港要覧、工事報文、各市史など公的に認められた史料を収集し、それらの記述を元に道内港湾の整備記録を整理し、特出すべき港湾整備技術とその役割、歴史的な位置づけについて整理した。

戦後は整備主体である北海道開発局のアーカイブ資料（北海道開発局のあゆみ）や関連する技術論文・報文を基礎資料として、昭和26年の北海道開発局誕生以降の代表的技術を抽出し、

それを年表形式で取り纏め、時代的な変遷を整理した。

## 3. 主要な成果

本研究は令和2年度が最終年度であることから、上記実施内容について、次の通り成果や課題を整理し、CPC調査研究報告書としてとりまとめた。

## ① 北海道の開拓と港湾整備の歴史

戦前の港湾整備における社会的背景として、北海道開拓の歴史を、とくに港湾と鉄道の面から概説した。

## ② 戦前の北海道港湾の整備経過

「北海道庁に於て施設したる港湾の概要」等文献の記載に基づき、北海道港湾8港の沿革や築港工事の経過を整理し、各港の建設で導入された当時の先端的技術、未解明技術に対する研究、応用の過程について概説した。

## ③ 北海道港湾の技術年表

終戦後の環境変化に係る事項として港湾整備主体の変化、港湾技術基準の形成、学術団体の動向を概説した。港湾技術年表には北海道開発以降の174技術を掲載し、年表作成にあたっては検索性を高めるため関連論文、著者、キーワードを掲載した。

## ④ 北海道港湾に採用された技術と伝達状況

戦後の代表的技術を計測、設計、施工などテーマ毎に分類し、その時代的な変遷と代表的な採用技術を概説した。